

■平成28年度第9回（第268回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成29年1月31日（火） 午前10時00分～午前10時25分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、日野副市長、本間副市長、水道事業管理者、教育長、技監、都市戦略本部長、総務局長、財政局長、市長公室理事、総合政策監、経済局長

【議 題】 第8回世界盆栽大会 in さいたま 大会概要について

< 提 案 説 明 >

第8回世界盆栽大会 in さいたま 大会概要について、経済局から次のような説明があった。

第8回世界盆栽大会の進捗状況に関し、以下のとおり報告する。

（開催概要）

- ・ 世界盆栽大会では、4万円の有料登録を行うことで、会期中のすべてのプログラムに参加することができ、また、一般の方向けにさいたまスーパーアリーナで開催される「日本の盆栽水石至宝展」については、当日の入場料1,000円・小学生以下無料となっている。

（大会推進体制）

- ・ さいたま市は、主催者である実行委員会に対する補助金の交付及び大会関連事業の実施を担っており、両者が連携しながら大会を推進する関係にある。
- ・ 実行委員会では、大会全体の企画・運営を行い、催事計画や国内の盆栽出展者や売店等の調整を担うほか、大会のボランティア募集や入場券販売などを行う。
- ・ さいたま市では、大会機運醸成を行いながら、市民が大会だけでなく盆栽文化へ関心を寄せるような取組を行っている。
- ・ ホスピタリティ・受入環境整備や市内経済活性化・にぎわい創出を行うことで、都市イメージの向上や地域活性化につながるよう取り組んでいる。なお、広報は、実行委員会にて実施。ただし、実行委員会と連携したイベントの実施や公共施設などを活用した広報は市が実施。
- ・ 国との連携については、農水省が将来的な盆栽の輸出拡大に向け、検疫済み盆栽の販売や輸出検査の実施などの措置について検討しているところであり、また、文化庁からは、大会に関連して実施する文化振興を図る本市の事業への補助金の採択など支援を受けている。参考：検疫済みの盆栽はアリーナ内で14店舗が販売決定

（大会の進捗状況）

- ・ 盆栽出展300席、売店180店については、予想以上に申込が多く、既に完売。
- ・ シャトルバスについては、大会登録者向けに各会場を周回しているが、至宝展入場

者に対する利用や、停留所等の運営方法などについて実行委員会へ確認を行う。

- ・ ボランティアについては、11月10日から募集を開始し、順調に応募があるが、国際交流センターに通訳ボランティアの協力をしてもらうなど、更なるボランティア確保に努めていく。

(大会登録・入場券販売)

- ・ 現時点での大会登録者は、国内230人、海外606人で、合計836人。登録者をさらに伸ばすために、実行委員会では盆栽関係団体による国内盆栽愛好家への登録促進と、まだ登録者が少ない中国及びアジア圏へアプローチしており、市でも各施設でのポスター掲示など引き続き大会のPRを実施していく。
- ・ また、「日本の盆栽水石至宝展」の入場券については、想定より販売が少ない状況のため、実行委員会で、定期的な情報発信による前売券の販売促進を行うとともに、市においても職員による入場券の購入や関係する団体・企業等への前売券の購入紹介などをしていく予定。

(大会収支計画)

- ・ 実行委員会作成の大会収支計画のうち、収入については、大会収入、展示収入ともに増額が見込まれ、約1,600万円の増額となる見込み。大会収入の協賛金については、他自治体として川口市、高松市、鹿沼市、羽生市に協力いただいている。
- ・ 支出については、会場内のW I - F I 設置費用や会場内誘導・案内などにより、約1,600万円の増額となる見込み。
- ・ 収支については、総額約2億2,000万円規模の事業となっているが、今後は、登録者の増加、入場券の売上げによる収入確保に努め、行催事の見直し等により支出の削減に努める。

(今後の主なスケジュール)

- ・ 実行委員会では、大会広報として1ヶ月前イベントや、JR駅貼り広告などを行い、市では、受入環境整備として、盆栽美術館までの道路整備などを行っていく。

(大会登録者用プログラム)

- ・ 開会式、盆栽作製の記念デモンストレーション、歓迎レセプションを予定。
- ・ 大会3日目の4月29日には、お別れパーティーとして「友好のタベ」と題した参加者の交流を深めるパーティーを実施するほか、TOIROでは、外国人向けの日本文化体験ができるワークショップを実施。

(一般来場者向けプログラム)

- ・ 4月28日から、さいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナで「日本の盆栽水石至宝展」が開催され、大宮盆栽の飛龍、普段は見ることのできない皇居の盆栽などが展示されるほか、大会の最後には、次期開催地の紹介などを行うグランドフィナーレにて締めくくる形となる。

(サブ会場プログラム)

- ・ 氷川神社では舞殿と回廊に約23席の盆栽を展示し、参拝客も盆栽を観賞できる。
- ・ 大宮盆栽美術館では、特別展を開催し、盆栽界の名樹である「五葉松 銘『日暮し』」を約6年ぶりに公開。

(その他市の取組)

- ・ 一般の方を対象とした公民館での盆栽体験型講座を20公民館で開催、193人の

参加者があつた。また、約1,000人の小学生に盆栽づくりをしてもらい、これらの盆栽を、さいたまスーパーアリーナに展示。

- ・ 大会期間中は、盆栽四季の家におもてなしの意味を込めた休憩スペースの設置、さいたま新都心駅前には植栽によるディスプレイの設置などを予定。
- ・ 大会後へ向けた取組として、大会直後の大盆栽まつりへの誘客や、さいたま市を訪れる観光客の増加に向けた取組を予定。

< 意見等 >

- ・ 世界盆栽大会後にどうつなげるかという点で、開会式や閉会式において、宣言を入れていくことを検討してほしい。大会のレガシーとして人材育成から盆栽アカデミーを作るということを認知してもらえるようにすること。また、協力体制をこの大会を契機に作っていく必要がある。また、登録者や来場者に、地域のお店で飲食をするなど、地域への波及効果を生む仕掛けづくりをしてほしい。
- 一番課題と思っているのが誘客。盆栽愛好家である登録者はもとより、一般来場者をどう増やしていくかを考えている。例えば、大型店舗で一定金額を買い上げると前売り入場券をプレゼントするなどといった誘客の促進を考えていかなければならない。開会宣言については、実行委員会と詰めなければならないことが多い。開会式のスケジュールや体制なども調整を行っているところ。
- ・ 特に、来賓関係の詳細は、早期に詰めていかなければならない事項と考えるが、見解は。
- 早急に実行委員会と詳細を詰めていきたい。駐車場や案内の体制など、まだ実行委員会での認識が進んでいない面もあるので、さらに集中して話し合っていきたいと考えている。
- ・ 大会の収支計画において、大会の収入が増額しているが、これは目標どおり達成できた場合の数字か、現時点で達成できている収支となっているのか。
- 出店等は達成できている数字だが、入場料などの販売は当日にならないとわからない部分もあるので目標の数字になっている。ただ、万一収入が足りなかった場合も含め、市がこれ以上負担することはなく、実行委員会側の負担となることは確認している。
- ・ 入場料や登録料収入が現時点では十分でないから、しっかり詰めないといけないというのと、登録者を増やすにも現状の認識がないと、登録を進めるような働きかけが増えてこないだろう。
- 目標は高めに設定しており、収支はそれより低いところで見合うようにしているため、目標が達成できなくても収支は合う。とはいえ、さらに収入を増やす取組は、実行委員会に働きかけていきたい。
- ・ PRは、どれだけやってもPR不足と言われることはよくある。後半に向けて、盛り上げるPRは必要。パブリシティ含め、メディア向けのPRなどももっとやっていかなければならない。
- 委託業者にも全国的なPRのノウハウをもっとやってほしいと思っている。一般的な観光PRなども足りていない。その辺をどうするか検討していきたい。

< 結 果 >

- ・ 経済局発議の第8回世界盆栽大会inさいたま 大会概要については、報告のとおり、了承とする。

< 会 議 資 料 >

(資料) 第8回世界盆栽大会 in さいたま 大会概要について